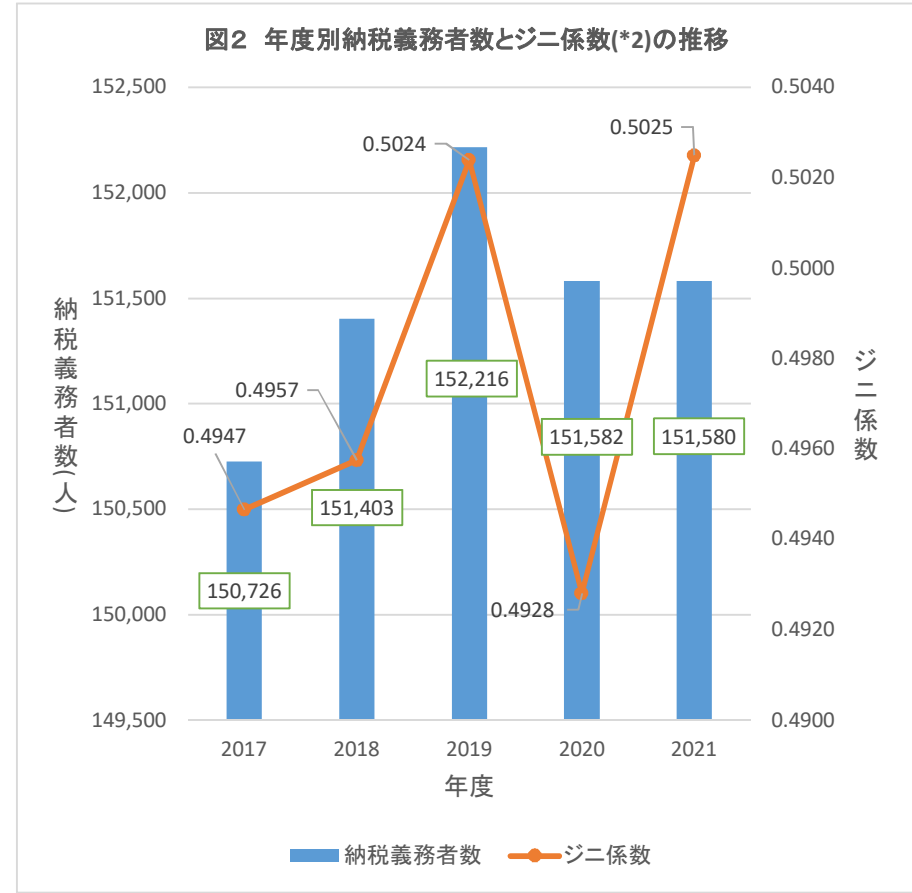
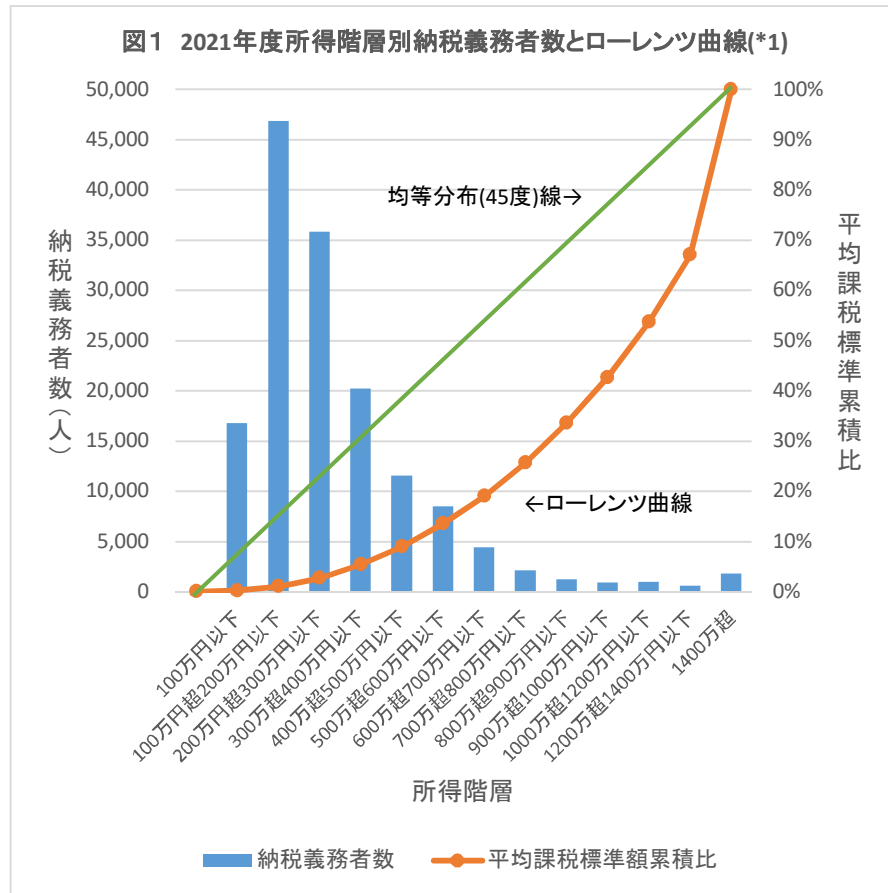


郡山市の所得階層別納税義務者数の分布と所得格差



* 1) ローレンツ曲線：郡山市における所得割のかかる納税義務者を所得階層順に並べ、各階層一人当たりの課税標準額の累積比率をグラフ化したもの。

均等分布(45度)線からの離れ具合により所得の格差を表し、格差が小さいほど45度線に近づき、格差が大きくなるほど下方に大きく膨らむ。

図1は、2021年度における本市の所得階層毎の納税義務者数と、一人当たりの課税標準額による格差状況を表したものである。

* 2) ジニ係数：ローレンツ曲線の膨らみ具合を数値化したもので、数値が小さいほど所得格差が小さく、大きいほど格差が大きいことを表す。

図2は、本市における直近5年間の、所得割のかかる納税義務者数とジニ係数を表したものである。

2020年度は令和元年東日本台風被害による雑損控除等により、ジニ係数も過去5年間で最も低い値と(格差が小さく)なっている。

2021年度は納税義務者数は2020年度とほぼ同数であるが、ジニ係数がやや大きくなった。これは、平均課税標準額が、1,400万超の所得階層で増加し、それ以外の階層(特に200万以下の階層)で減少したためであり、コロナ禍からの経済回復の二極化を表しているとも考えられる。

注意！) 今回の結果は、いわゆる「所得の再分配(他の税や社会保障等による再分配等)」前のものであり、厚労省の調査では、通常再分配後の格差は30%程度低くなる。